

浜松エア・フェスタの問題

「エアフェスタ浜松2019」は観光ショーか――

エアフェスタ浜松の宣伝

☆今年も十月二十日に、エアフェスタ（航空祭）が行われます。昨年はこのエアフェスタに子ども連れが目立つ見物客が十三万人も集まりました。

☆この催しが、いま航空自衛隊浜松基地の広報・特設ホームページで、あたかも観光ショーのように大々的に宣伝されています。果たして、この催しは安全な観光ショーのようなものなのでしょうか。

過去に重大な事故が

☆実は、一九八二年十一月十四日、このショーにおいて戦闘機ブルーインパルス一機が、民間空き地に墜落し、死者一名、重軽傷者十二名、自動車二十五台以上、民家一軒全焼という大事故を起こしています。戦闘機がもし十三万人の見物席に墜落したらと思うと、ぞつとします。

自衛隊の印象操作

☆そもそも、自衛隊そのものが「印象操作によって」災害救助組織のように勘違いされていますが、本務は戦闘なのです。戦闘機は観光ショーのために作られたものではありません。文字通り戦争の時の戦闘のために作られたものです。

☆それなのに、エア・フェスタでは、航空ショーのほかにミス浜松やミス浜松祭りを呼んで、軽音楽、太鼓演奏、果ては消防署がやるべき消防放水体験といったイベントを用意してあたかも平和の祭典の様な印象操作が行われています。

☆幼稚園のお子さんを招待して戦闘機にお絵かきをさせたこともあります。子どもにまで、戦闘機は楽しい乗り物といった印象を植え付けています。

私たちはこの催しの中止を求めます

☆私たち「浜松市憲法を守る会」は、国民や子どもに自衛隊について誤った印象を植え付けるこの催しの中止を、毎年他の平和団体と共同で自衛隊に要請してきました。

☆基本的に、私たちは憲法9条に書かれている様に、戦争のための武力を持たないこと、自衛隊は災害救助組織に改編する事を主張してきました。

☆一機百億円以上もする戦闘機をアメリカから百機も爆買いするお金は、保育所設置などの福祉に回すべきです。

☆エア・フェスタを観光ショーのように見せる姑息な印象操作を止め、改めてこの催しの中止を強く求めます。

☆ 戦闘機購入のお金は福祉に！ ☆

二〇一九年十月十三日（日）護憲平和行進（通算632回目）
★浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇―一五
月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合



Now

★今、子どもが洗脳されています。子どもの未来に戦争ではなく平和を！